

温室効果ガス排出状況

市内公共施設など

市では、平成14年度に「羽曳野市地球温暖化対策推進実行計画」を策定し、市の各公共施設などの事務事業によって排出される温室効果ガスの排出量を平成22年度で、平成

13年度比11%削減を目標に取り組みを進めています。市ではこれまでの進捗状況を把握するため、平成21年度の温室効果ガス排出量の調査を行いました。

1. エネルギーの使用量など

表1 エネルギーの使用量など（年間）

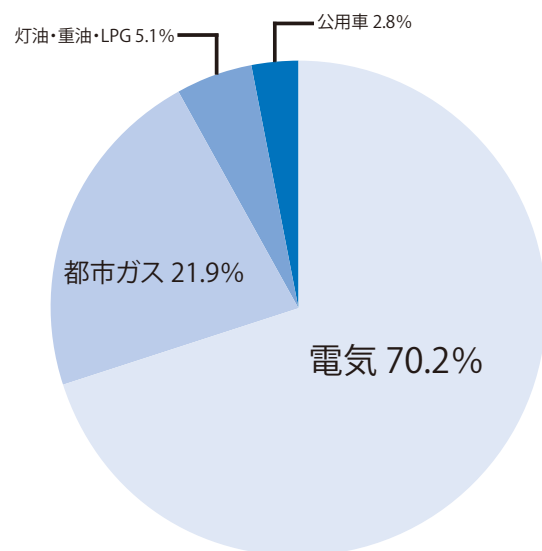
			平成13年度	平成21年度	増減
燃料使用量	ガソリン	L	77,127	58,690	▲18,437(-23.9)
	軽油	L	45,453	31,159	▲14,294(-31.4)
	灯油	L	95,014	81,876	▲13,138(-13.8)
	A重油	L	7,700	7,640	▲60(-0.8)
	液化石油ガス(LPG)	kg	90,730	65,893	▲24,837(-27.4)
	液化天然ガス(LNG)	m ³	0	4,209	4,209
	都市ガス	m ³	959,573	816,802	▲142,771(-14.9)
電気使用量	kWh	17,421,389	16,441,229	▲980,160(-5.6)	
公用車走行距離	km	713,469	652,463	▲61,006(-8.6)	
HFC-134a封入カーエアコンの使用(年間)	台	131	151	20(15.3)	

平成21年度の温室効果ガスに関連するエネルギー別の使用量などは、表1のとおり、ほとんどのエネルギーの使用量が大幅に削減されています。

2. 平成21年度の温室効果ガス排出量

	平成21年度(kg-CO ₂)
ガソリン	136,259
軽油	80,545
灯油	203,829
A重油	20,702
液化石油ガス	197,606
液化天然ガス	11,376
都市ガス	1,824,757
電気	5,836,636
自動車の走行	5,252
カーエアコン	2,945
計	8,319,907

平成21年度燃料別消費割合



平成20年度の排出係数を用いた市の事業実施に伴う平成21年度の温室効果ガス排出量は年間で8,320トン、そのうち約70%が電気で、約22%が都市ガスの使用によるものです。

3. 温室効果ガスの平成13年度と平成21年度の比較

平成13年度と平成21年度のエネルギー使用などに起因する温室効果ガス排出量を比較するために、平成11年度の排出係数を用いて、排出量を比較すると、平成21年度は平成13年度に比較して9.1%削減していることがわかりました。

「羽曳野市地球温暖化対策推進実行計画」では、平成22年度における温室効果ガスの総排出量（二酸化炭素換算）を、平成13年度を基準として11%削減を目標としていますので、目標達成には、さらに取組を強化することが求められています。

表2 エネルギー使用などに起因する温室効果ガス排出量の比較（単位：kg-CO₂）

		平成13年度	平成21年度
燃料使用	ガソリン	178,163	135,574
	軽油	119,995	82,260
	灯油	238,484	205,509
	A重油	21,329	21,163
	液化石油ガス(LPG)	274,003	198,997
	液化天然ガス(LNG)	0	11,743
	都市ガス	2,063,082	1,756,124
電気使用	6,219,435	5,869,518	
自動車の走行	5,007	4,613	
HFC-134a封入カーエアコンの使用(年間)	2,554	2,945	
合計	9,122,055	8,288,446	
増減(%)	-	▲833,609(-9.1)	

注) ()は、平成13年度の排出量に対する増減の百分率を示しています。



問合せ：環境衛生課 環境計画担当【内線 2844】